

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100101
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホーム けやき
所在地	鹿屋市串良町細山田5902番地3 (電話) 0994-62-4060
自己評価作成日	平成26年9月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①恵まれた自然環境の中に立地しており、ご自宅と同じようにのんびりとした時間の流れの中で生活していただける場を提供しています。
- ②ご家族を始め、地域にお住まいの方々の温かいご理解、ご協力を得ながら、交流の機会を設けています。
- ③入居者お一人お一人の個性や能力を尊重した支援を行い、その能力を維持できるよう健康管理や機能訓練、レクリエーションに趣向を凝らしています。
- ④季節を肌で感じ、いきいきと生活していただけるよう、初詣や花見、ばら園見学、夏祭り、みかん狩り等を計画し、外出の機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿屋市の市街地、広大な田畑が続き恵まれた自然環境の中に立地している。敷地内には法人の特別養護老人ホームも隣接している。目の前には牧場があり、天気の良い日利用者は玄関先で楽しみながら見学している。開設当初から地域とは、地域の花見や保育園の運動会を見学したり、地域の奉仕作業として草払いに参加するなど交流を図っている。また学生の職場体験の受け入れや、ホームの夏祭りには地域の方々を招待するなど日常的な交流は盛んである。馴染みの関係継続にも自宅周りのドライブや行きつけの店への買い物、友人・知人の訪問受入れなど工夫して可能な限り支援している。職員の研修等も法人全体であり、積極的に参加して介護サービスの質の向上に反映している。また職員会議とは別に毎月処遇会議を開き常に理念を意識しながら、地域との交流を盛んにし、多くの人々とのふれあいの場をもつことに努められるよう、利用者がゆったりと日々のしく過ごしてもらえるように支援しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を日常的に確認できる所に掲示し、スタッフ全員がその理念に沿ったケアを提供できるよう日々努力している。	理念は皆が確認できるリビングに掲示され、毎朝朝礼時に唱和し理念に対する意識を高め共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花見等の行事には積極的に参加している。また、施設の夏祭り等の行事には地域の人々を招待し、多くの人々との触れ合いの場を設け、交流を図っている。	開設から地域との交流は盛んで地域の行事への参加や、ホームの夏祭りなどの行事へも招待している。ふれあいの場を持つことで地域の一員としての交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の高齢者が生活する為に必要な情報を提供したり、施設見学者等も随時受け入れ、地域の方々の認知症高齢者に対する理解の一助となるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や行事等への取り組みを写真や資料を用いて報告し、外部評価の結果についても公表している。また、事業所の改善課題を話し合う等、より良いサービスの質の向上に努めている。	会議は2ヶ月毎に開催され、利用者の出席もある。ホームの活動状況報告や事例報告、また行政から意見をもらってサービス向上や改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員も参加し、意見交換している。また、施設の空き室状況は随時報告し、地域住民への情報提供先として協力関係にある。	市担当者とは、メールや電話で情報をもらったり、アドバイスを受けてたり、出向いたりして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	処遇会議等でスタッフ全員が、身体拘束による弊害等をよく理解し、正しい知識を共有している。また、個々のケースが身体拘束に繋がらない様、起きる、食べる、活動するなど基本的なケアを意識し、取り組んでいる。	職員は処遇会議等で身体拘束の弊害については研修をして、知識や意識を高めたケアに努めている。日中は玄関の施錠はせずに利用者自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法における、虐待の定義や内容を処遇会議等で十分検討し、利用者に対する虐待が起こらない様取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター主催の研修や施設内研修で知識を深め、処遇会議でも権利擁護成年後見制度に対する勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の内容を分かりやすく丁寧に説明し、不安や疑問がないか利用者や家族に確認し、個々の質問に対しても丁寧に説明し、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者と十分コミュニケーションを図るよう心掛け、随時利用者の意見、要望を傾聴し、改善すべき事項に直ぐに対応している。家族も面会時や担当者会議、運営推進会議等において、気軽に意見を出せるよう努めている。	面会時や電話連絡時には、常に意見・要望を聞きだすように努めている。出された意見・要望については職員間で話し合っ て、サービスの質の向上と運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇会議等で出された意見や提案等は代表者に報告し、管理者とともに改善に向けて検討したり、職員と個別に話し合う機会を持つ等、施設や職員のサービスの質の向上を図っている。	申し送り時や職員会議、また処遇会議等で意見交換や勉強会を行い、改善に向けている。出された職員の意見・提案は運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得やキャリアでスキルアップが図れる仕組みを構築し、定期的に自己評価、上司の助言、指導を行い、各自が向上心を持って働けるよう給与水準、職場環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	採用時は新入職員研修を行い、職場の基本的な知識、マナーなどを学ぶ。グループホーム協議会や大隅地区介護事業所連絡協議会の各種研修に参加しスキルアップできる機会を確保し。職員の質の向上を図っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	大隅地区のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会や勉強会、セミナー等に参加したり、他施設を訪問し情報交換を行い職員同士の交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の生活歴や趣味、嗜好など情報提供を受け、施設内でも自分のペースで生活していけるよう環境を整えていきます。また入居後も面会や外泊、電話等で家族の協力を得ながら不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員からコミュニケーションを図り、不安や悩みを打ち明けやすい関係作りに努めている。周囲に理解して貰えない。介護疲れや入居者本人との関係性に行き詰まりを感じている場合がある為、ねぎらい傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような事で困っているのか、何を求めているのかを把握し、必要に応じ、他の介護保険サービスや医療、保健サービス等も説明し、居宅介護支援事業所の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者お一人お一人の能力を生かし、職員は年齢を重ねたよき先輩として敬い、知識や経験からお互いアドバイスして貰えるような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会や電話等で随時情報交換を行い、利用者が寂しさや不安、孤立を感じる事がないよう、コミュニケーションに努めながら家族とスタッフ全員で協力し合い本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にかかっていた主治医との関係を継続し、また、利用していた商店や家族、友人との付き合いを継続できるよう支援している。	家族や利用者との会話の中から馴染みの場所・人との関係を把握し、自宅周辺にドライブに行ったり、家族の支援をもらいながら買い物に行ったりと関係が途切れない支援が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が安心して過ごせるようホール内での座席を考慮し、孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入り、会話の橋渡しをするなど配慮し、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを必要とする利用者や家族へは来所や電話での相談に応じ、支援している。少しでも安心していただけるよう契約終了後の関係も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や職歴、趣味、嗜好等を把握し、個々の残されている能力を活用しながら、その人のペースに合った、望む生活が送れるよう支援している。	日常の会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情・言動・家族からの情報などから本人本位に検討している。連絡ノートで職員は情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での日常生活の状況等を本人や家族から聴くとともに、本人の有する能力を把握し、居宅介護支援事業所等と情報交換を行い、サービス利用に至った経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が個々の生活のペース、ADL状況等を把握し、心身の変化についても随時処遇会議等で報告し、情報を共有して常に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からアセスメントを行い、解決すべき課題を明らかにし、本人、家族に希望や要望を尋ね、スタッフと話し合い介護計画を作成している。また、状態の変化に応じ、介護計画の見直しを行っている。	利用者ごとに担当制を設け、担当職員との情報の共有や、を通して利用者や家族の意向を聞いて個々に応じた個別の介護計画を作成している。状況に変化があれば随時見直しを行い、変化がなくても3ヶ月ごとに見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録には、毎日の生活状況や変化を記録し、変化があった時には、その都度ミーティングや職員連絡ノートで全スタッフが情報を共有できるようにし、介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	絶えず変化する利用者、家族の意向に適切に対応できるよう、小規模施設の特徴を生かし、直ぐにスタッフ間で話し合いの場を持ち、臨機応変な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老祝賀会の行事には家族や民生委員、ボランティア、行政機関を招待し、運営推進会議には地域の消防団長を委員に加え、地域の機関との関わりに努め、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の本人かかりつけの医療機関や、ない場合には本人や家族が希望する医療機関と協力関係を築き、安心して医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の状態に変化がみられた場合にはかかりつけ医療機関や併設特養の看護師と連携を取り、指示や助言を受け対応する等、協力を得ながら個々の適切な健康管理を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>本人に関する情報等を医療機関に提供し、スムーズに治療ができるよう支援している。また、入院中の本人の状態について、随時、医療機関のソーシャルワーカーから情報を取りながら、本人の状態を把握し、早期退院に向けて連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人や家族に対して、重度化した場合の施設の方針を説明し、状態が変化した場合には、随時話し合いながら、本人や家族が希望する適切なサービスを提供できるよう支援している。終末期に対しては医療機関での治療を優先している。</p>	<p>入所時に重度化や終末期における、ホームで出来る対応を説明している。看取り介護についての同意書もあり、段階を追って家族との話し合いや主治医、医療機関との連携を取りながら支援に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>特養の看護師による応急手当等の研修を行ったり、定期的に救命講習会に参加し、急変や事故発生時に備え、知識を身につけるよう努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民を交え、定期的に避難訓練を実施し、また、自主避難訓練を月に1回実施している。運営推進会議の委員として地域の消防団長に参加依頼しており、災害時の対応として、必要な情報交換を行っている。</p>	<p>消防署指導の下、年2回昼夜間想定で地域住民も参加し避難訓練を行っている。またあらゆる想定での自主訓練も瀬会に行い、運営推進会議に地域の消防団長が参加するなど、地域との協力体制が築かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの保護については、特に細心の注意を払い、全スタッフが思いやりを持ち、相手の立場に立って接するよう努力している。	利用者への言葉かけは十分注意して、排泄失敗時等はさりげなく部屋に誘導するなど尊厳に関わることには配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、利用者一人ひとりに合った分かりやすい説明を行い、選択肢を出来るだけ多くし、本人が自己決定しやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握し、一人ひとりのペースに合わせてサービスを提供している。本人の希望や体調等を勘案しながら希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類等、本人の好みを尊重し、好みの物を一緒に選び、又、希望があれば理容ボランティアを利用し、本人の好みの髪型にしてもらう等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を調理に活かし献立を作ったり、嫌いな物やアレルギー等あれば、代替品で対応している。又、可能な限り準備や調理、後片づけを一緒に行うよう努めている。	食事は利用者の嗜好を考えた献立を取り入れている。誕生会や行事食などは趣向を凝らし楽しんだ食事になっている。利用者はもやしの根切りやおはぎの団子作りなど、一緒に準備や、片付けをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養栄養士が作成した栄養バランスの取れた献立を個々の嚥下状態や好みに合わせた食事形態で提供している。スプーンや箸、フォークなど状態に合わせて準備し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かし、声かけや誘導、一部介助を行っている。また、スタッフは口腔内を観察し、歯周病などのチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄の間隔を把握した上で、定期的に声かけやトイレへの誘導を行い支援している。	排泄チェック表を作成して個々のパターンを把握し、日中はトイレへ誘導している。職員は個々に応じてトイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維を多く取り入れ、水分は適切な水分量を摂取できるよう飲み物の種類を変えて提供するなど工夫している。また、毎日本体操やレクリエーションを行い、適度な運動を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日に限らず、希望や身体状況により、入浴できるよう支援している。また、入浴の順番も希望により調整している。	週3回ではあるが、希望に応じて毎日でも可能である。入浴をためらう利用者へは、声かけを工夫して、気持ちよく楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや屋外散歩等で適度な運動を取り入れ、夜間安眠できるよう支援している。また、その方のペースにより、日中、居室で休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報やお薬手帳を整理し、目的、用法、用量、副作用等について、スタッフは理解し、服薬の支援を行っている。また、症状の変化は記録し、主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や食事の準備、後片づけ等、個々の生活歴や有する能力を引き出すことができる声かけを行い、役割や楽しみ、生きがいを持って生活していけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の体調や希望、また、天候等に応じ、屋外散歩や外食ショッピング、季節を感じられる場所等への外出を支援している。家族にも声を掛け、地域の方々々と協力しながら支援できるよう努めている。	天候や体調をみて、ドライブや利用者の買いたい品物を買いに出かけたり、玄関先で目の前の牧場の馬を眺めるなど、ホームに閉じこもらないように、家族の協力を得ながら外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の意向で自己管理できる程度の現金を所持し、外出や買い物の際に自分で支払いができるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望する時にはいつでも電話が掛けられるよう支援し、手紙に関してはプライバシーに配慮し、本人が希望した場合には代読している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やウッドデッキ、食堂ホールには季節の花々や観葉植物を飾り、また、居間に仏壇を置く等、家庭的な生活感や季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>広いリビングは対面式キッチンで見守りに配慮している。仏壇のコーナーもあり生活感がある。壁には作品や行事ごとの写真が貼られ季節感も見てとれるよう、落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士、ソファで一緒にテレビを見たり洗濯物を畳んだりして過ごす、独りでゆっくりしたい方は職員が声を掛け、キッチンのカウンター席で寛いだりできるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は自宅で使用していた衣服や家具、ご家族の写真に囲まれと本人が居心地良く安心して生活できるよう工夫している。</p>	<p>テレビ・タンス・時計など馴染のものを持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がされている。部屋のドアは通常は閉めてあり「必ずノックをして下さい」の貼紙をしてプライバシーにも配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日時が分かるよう目に付く場所に大き目の時計や日めくりカレンダーを設置し、各居室入口には表札や印で自分の部屋が分かるよう工夫している。また、残存機能を活かして生活できるよう廊下やトイレ、浴室に手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない